

岩沼市教育委員会
点検・評価報告書
(令和7年度実績)

岩沼市教育委員会

目 次

I 点検・評価の概要	1
1 本報告書について	
2 点検・評価実施内容	
II 教育委員会の会議等活動状況	2
1 教育委員会の会議の開催状況	
2 総合教育会議の開催状況	
3 教育機関訪問	
III 事務事業の実施状況・点検・評価	4
岩沼市教育基本方針	4
「たくましさやさしさを培う学校づくりの推進」に関する事業	5
「学びと潤いにみちた地域社会の実現」に関する事業	19
「かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興」に関する事業	24
IV 学識経験者の意見	29

I 点検・評価の概要

1 本報告書について

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、岩沼市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し、その結果をまとめたものです。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）】

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価実施内容

岩沼市教育重点目標に基づいて令和 7 年度に実施した主な事務事業の執行状況について、教育委員会において点検・評価を行いました。

その後、教育委員会が行った点検・評価（自己評価）について、学識経験者 2 名の方から御意見をいただき、あらためて各事務事業を検証しました。

御意見をいただいた学識経験者

柄 澤 一 彦 氏（元公立小学校長）

森 伴 久 氏（元公立小学校長）

Ⅱ 教育委員会の会議等活動状況

○教育長・教育委員（令和7年度在籍）

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	及 川 浩 市	(R5. 10. 1～)
教育長職務代理者	南 館 公 雄	(R6. 10. 9～) (委員 H26. 11. 1～)
委 員	山 田 芳 弘	(R6. 10. 9～)
委 員	江 里 美穂子	(R6. 10. 9～)
委 員	木 村 紀 子	(R5. 10. 4～)

1 教育委員会の会議の開催状況

岩沼市教育委員会会議規則（昭和55年教育委員会規則第2号）第4条の規定により、定例会を毎月1回、臨時会を必要に応じて開催しています。令和7年度は、12回の会議を開催し、24件の議案を審議し、1件の事案を協議しました。

開催期日・会議	議案番号	内容
令和7年 4月24日(木) 定例会	第8号	学校医、学校歯科校医及び学校薬剤師の委嘱について
5月22日(木) 定例会	第9号	岩沼市社会教育委員の委嘱について
	第10号	岩沼市障害児就学指導審議会委員の委嘱について
	第11号	岩沼市通学路等安全対策推進会議委員の委嘱について
	第12号	岩沼市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
	第13号	岩沼市いじめ問題対策推進委員の委嘱について
	第14号	岩沼市社会教育委員の委嘱について
	第15号	岩沼市青少年室運営協議会委員の委嘱について
	第16号	岩沼市青少年室青少年相談員の委嘱について
6月12日(木) 定例会	第17号	岩沼市スポーツ推進委員の委嘱について
	第18号	岩沼市学校給食運営協議会委員の委嘱について
6月26日(木) 持ち回り審議	第19号	岩沼市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
	第20号	令和8年度使用教科用図書採択希望について
7月24日(木) 定例会	第21号	令和8年度使用教科用図書の採択について

開催期日・会議	議案番号	内 容
8 月 21 日(木) 定例会	第 22 号	岩沼市教育委員会点検・評価報告書（令和 6 年度実績）について
9 月 18 日(木) 定例会	第 23 号	岩沼市学校給食運営協議会委員の委嘱について
10 月 16 日(木) 定例会		（報告事項のみ）
11 月 6 日(木) 定例会	第 24 号	令和 8 年度岩沼市教育費予算（案）について
12 月 25 日(木) 定例会	第 25 号	岩沼市民図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について
令和 8 年 1 月 22 日(木) 定例会	第 1 号 協議	岩沼市民会館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について 岩沼市教育基本方針及び令和 8 年度岩沼市教育目標について
2 月 10 日(火) 定例会	第 2 号	岩沼市教育基本方針及び令和 8 年度岩沼市教育目標の設定について
	第 3 号	岩沼市いじめ防止基本方針の改定について
	第 4 号	県費教職員の任免等の内申について
3 月 12 日(木) 定例会	第 5 号	岩沼市教職員の働き方改革に関する取組方針の改訂について
	第 6 号	市職員（管理職）の人事異動について

2 総合教育会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4 の規定により、市長と教育委員会により、総合教育会議を開催しております。令和 7 年度は、1 回の会議を開催し、3 件のテーマについて話し合われました。

開催期日	協議事項
令和 7 年 12 月 25 日(木)	① 子どもの学びの質の向上 ② 学校に登校していない子どもへの支援 ③ 教職員の働き方改革の推進

Ⅲ 事務事業の実施状況・点検・評価

点検・評価の対象とした事務事業は、令和7年度岩沼市教育基本方針の3つの分野における目標として掲げた下記の10項目としました。それぞれの実施状況について記載し、基本方針ごとに点検・評価を行いました。

岩沼市教育基本方針

未来社会を展望し、広い視野と主体性をもち、命あるすべてのものと共に生きる心豊かな人間の形成と、明るく楽しい魅力あるまちづくりをめざし、学校・家庭・地域が一体となって、

「たくましさやさしさを培う学校づくりの推進」

「学びと潤いにみちた地域社会の実現」

「かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興」

を中心に、市民の生涯にわたる学習の充実に努める。

令和7年度岩沼市教育目標

「たくましさやさしさを培う学校づくりの推進」

- 1 夢やあこがれをはぐくむ学校づくり
- 2 豊かな人間性や社会性、健やかな心身の育成
- 3 学びの多様化に応じたきめ細やかな教育の推進
- 4 魅力ある教育環境づくり

「学びと潤いにみちた地域社会の実現」

- 1 生涯学習推進体制の整備
- 2 生涯にわたる学習機会の充実
- 3 社会教育施設の有効活用

「かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興」

- 1 芸術文化活動の推進
- 2 文化財の保護と活用の推進
- 3 生涯スポーツの振興

たくましさとやさしさを培う学校づくりの推進

1 夢やあこがれをはぐくむ学校づくり

(1) 学力向上の着実な推進

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指す授業改善

○教職員研修会（全教職員対象）、校長会及び教頭会、各担当者会で指示
（小中学校学習支援事業）

○補助教員 19 名 教育支援員 12 名 を配置
（只野文哉先生小中学校科学技術奨励事業）（副読本作成・配付事業）

○只野文哉記念科学技術作品展：市民図書館にて開催 作品数 53 点（10 月）

○副読本「わたしたちの岩沼」：小学 3・4 年生の授業で活用（冊子）

○副読本「岩沼の自然」：小学 3～6 年生の学習に活用（デジタル版）

② 全国学力・学習状況調査及び各種調査結果の活用による指導方法の工夫、改善

教科全体の平均正答率比較（2025 年度 全国学力・学習状況調査結果から）

校種・学年	教科	岩沼市	宮城県 （仙台市を含む）	全国
小学校 第 6 学年	国語	63	65	67
	算数	53	55	58
	理科	56	55	57
中学校 第 3 学年	国語	54	54	54
	数学	49	46	48
	理科	52.5	50.3	50.3

全国学力・学習状況調査では、全国や宮城県と比較して課題もあるが、中学校理科などで全国を上回る成果も見られた。こうした強みをさらに伸ばしつつ、課題となった「表現力」や「根拠をもって説明する力」を重点的に高め、個別最適な学びと協働的な学びを ICT の力で推進する教育を進めていく。

○校長会等において指示

③ 家庭との連携を図った学習習慣の形成と自律した学びへの転換

（学力向上推進事業）

○「自立した学習者の育成を目指して」：令和 7 年 4 月からデジタル版公開

※ 学校・家庭・地域が一体となって子供の学びを支えることを目的に、岩沼市の教育施策を分かりやすくまとめた資料

○「家庭学習の手引ー根を養えばー」（小学校）：デジタル版公開

○「家庭学習の手引ー未来を拓く子どものためにー」（中学校）：デジタル版公開

○デジタルドリルの導入

（令和 6 年度から導入。令和 7 年度からは AI ドリルに変更）

○いわぬまチャレンジの提供：「いわぬまこどもポータル」サイトに、子供達が自ら挑戦したくなるイベントや作品募集を掲載

○岩沼学び塾：放課後及び夏季・冬季休業期間に実施 開催回数 216 回

支援を受けた児童生徒数 延べ 4,133 人、参加支援者数 延べ 889 人

小学校会場では「家より学習しやすい」「家より楽しく学習できた」「家ではあまりやる気が出ないことも学習できた」という回答が参加児童の 5 割から得られた。また、岩沼学び塾参加後に家庭学習の時間が増えたという回答が参加児童の 9 割から得られた。中学校会場では「分からないところが少なくなった」という回答が参加生徒の 5 割を超え、「学習の仕方が分かるようになった」「学習が楽しくなった」との前向きな回答も数多く得られた。また、家庭学習時間 2 時間以上の回答が、前期学び塾 21.2%、後期学び塾 26.9%と増加し、学び塾に参加することで一定時間の家庭学習をする習慣が身に付いた生徒も多い。

④ 校内研究や教職員研修の充実

(教育指導支援事業)

○校内研究充実支援事業：指導主事・教育指導専門監による学校訪問指導 16 回

○市内相互授業参観：学校の枠を越えて研究授業を参観し合う機会の確保

○授業づくり Basic ガイド：教育指導専門監監修による指導書の配付

○教職員研修会（全教職員対象） 2 回

○各種研修会：初任者研修会、教務主任者研修会、研究主任者研修会、講師研修会
補助教員研修会、いわすた（情報化推進リーダー）研修会
養護教諭部会研修会、栄養士部会研修会、学校図書館職員研修会 等

（２）夢やあこがれをはぐくむ教育活動の展開

① 学校の実態に応じた教育課程の編成と評価活動の推進

○校長会等において指示

② 学校教育目標推進事業の充実

■各学校の成果

学校名		投資内容	成果
岩沼小学校	知	授業用デジタルコンテンツ・アプリの充実	1 人 1 台端末で「自分で調べ、みんなで共有し、さらに深める」一連のデジタルワークを日常化させた。受け身ではない「自立した学習者」の基礎を育てた。
	徳	全校読み聞かせ用書籍・情操教育ライブラリの拡充	朝の読み聞かせ活動などを通じて、日常のなかに豊かな情操と言葉を大切にする文化を醸成した。子供達の「心の安全基地」を構築した。
	体	昇降口への「常設型握力計」および	「つつい触りたくなる、体を動かしたくなる仕掛け」を校内に埋め込んだ。特別な運動時間

		休み時間用スポーツ遊具の配備	を設けずとも、日常的な体力の底上げにつながる動機付けを達成した。
玉浦小学校	知	プログラミング教材・1人1台用英語ヘッドセットの導入	試行錯誤を繰り返すプログラミング学習と、デジタルによる個別最適な英語の音声学習を推進した。ICTを文房具のように使いこなす授業DXを実現した。
	徳	校内サポートルーム（別室）の環境整備	不登校児童が「ここなら安心して登校できる」と思える居場所をきれいに整えた。一人ひとりの多様性に寄り添う安心の環境を担保した。
	体	高精度熱中症計の配備・プール環境の整備	データに基づく厳格なリスク管理を徹底した。異常気象下でも、安全かつ質の高い体育授業を保障する「命を守る予算投資」を実行した。
岩沼西小学校	知	全教室への「大型電子タイマー」一斉配備	「残り時間」をクラス全体に視覚化した。子供達が自分で時間を意識し、見通しを持って主体的に課題へ向かう「学びのテンポ」を定着させた。
	徳	特別支援学級用「社会生活検査」の実施・専門備品の購入	子供達の小さな変容をデータで客観的に把握した。一人ひとりの特性にジャストフィットする教材や備品を整え、きめ細かな自立支援を具現化した。
	体	跳び箱指導の外部専門講師（プロ）の招聘・全校電波時計の配備	低学年が恐怖心を持たずに技能向上できるプロの指導工夫を導入し、教員の指導力も底上げした。また、全校の時計を同期させることで、落ち着いた安全な生活習慣を形成した。
岩沼南小学校	知	対話的学びを活性化させる協働学習ソフト・周辺機器の導入	子供達が互いの考えを画面上でドッキングさせ、比較・検討しながら思考を深める「協働的な授業」のスタイルを確立した。
	徳	児童会活動・学級目標具現化のための活動資材の支援	子供達自身が「自分たちの学校やクラスをより良くしている」と実感できる主体的な活動を応援した。一人ひとりの所属感と自己有用感を向上させた。
	体	校庭の環境整備・休み時間用の各種運動用具の補充	外遊びをする児童を目に見えて増加させた。仲間と共に多様な運動に親しむことで、体力の向上と健やかな集団づくりを同時に達成した。
岩沼中学校	知	不登校支援室「ほっとルーム」の学習環境・デジタル	別室の環境（机・椅子・学習ソフト等）をリニューアルし、対象生徒の利用人数や登校日数の増加というダイレクトな成果を創出した。総合

		教材の改善	的な学習の時間「高校訪問」ではスマホ活用による生徒主体の安全な班別研修も実現した。
	徳	超一流の外部講師（弁護士、海外NGO、震災語りべ）の招聘	いじめ、国際理解、防災というリアルな社会課題のプロを投入した。生徒の心を揺さぶり、机上だけでは不可能な「多面的・多角的に考える」深い道徳的実践力を育てた。
	体	保健体育（ダンス）のプロダンサー招聘・校庭安全整備・部活動物品補充	中学生特有の「恥ずかしさ」をプロの技で乗り越えさせ、体で自己表現する喜びを爆発的に引き出した。限られた時間でも効率的に活動できる部活動環境も構築した。
玉浦中学校	知	地域探究（総合的な学習の時間）のための学習・移動資材購入	地域の伝統や環境をテーマにした教科横断的な探究学習を展開した。リアルな社会課題に対し、中学生らしい多角的な視野で解決策を提案する論理的思考力を育てた。
	徳	地域農園栽培・伝統「連風」文化継承・森の整備活動のための各種資材購入	地域と一体となったダイナミックな体験活動へ投資した。「地域社会の中で自分が役に立っている、必要とされている」という強い自己有用感を獲得させた。
	体	体力向上プログラム用備品購入・校内スポーツ大会の運営支援	授業での「1分間往復走」などの継続や、スポーツ大会の充実を図った。生徒が自発的に持久力を高め、生涯にわたって運動を愛する基盤を形成した。
岩沼北中学校	知	サポートルームからのリモート授業配信システム・AIドリル等の導入	どんな状況にある生徒も「学びの輪」から取り残さない環境を作った。個別最適な遠隔・対面ハイブリッド型の学習環境を構築した。
	徳	生徒会主体の挨拶運動・人権啓発活動のための資材・環境整備	生徒の「自分たちで学校を良くしたい」という自発的な活動をバックアップした。お互いの良さや個性を認め合える、荒れのない落ち着いた集団へと成熟させた。
	体	各種部活動用物品の計画的な補充・更新	部活動の活動環境をアップデートした。限られた活動時間であっても、生徒が効率的かつ安全に、質の高い練習ができる環境を保障した。
岩沼西中学校	知	内研究・公開授業のための指導助言者（外部専門家）	「一人一授業公開」を軸とした教員の授業力向上に投資した。デジタルとリアルを融合させ、生徒同士が質の高い「問い」を立てて議論する

		の招聘	授業への転換を推進した。
	徳	学校図書館の蔵書 拡充および各教科 連動の特設読書コ ーナー設置	調べ学習や多角的な視点を得るための書籍を充 実させた。様々なジャンルの本に触れること で、多様性を理解する「心の教育」を深化させ た。
	体	栄養教諭による食 育活動の教材開 発・主体的な体力 向上備品の配備	健康な体づくりの基礎となる「食への意識」を 高める食育を推進した。同時に、生徒が自発的 に体力向上に取り組む環境を継続して整備し た。

③ 志教育の充実による適切な進路指導及び地域や企業等と連携したキャリア教育の推進
(学校教育目標推進事業)(夢☆あこがれプロジェクト事業)

- 多様な講師を招聘した授業を展開(地元企業、福祉団体、農業体験等)
- ㈱にしき食品と玉浦小学校による「学校のカレープロジェクト」
レトルトカレーの企画から味の決定、パッケージデザインまで商品づくりの一連の
流れを体験。「りんごやきにくカレー」「にくカレー」を商品化(4月～R8.1月)
- 劇団四季「こころの劇場」の観覧(小学5・6年生 7月)
- 西村まさ彦氏(俳優)による講演(西中・南小 1月)

(3) 伝統・文化の尊重と国際理解をはぐくむ教育の推進

① 国際理解教育の推進

② 外国語活動及び外国語教育の充実

(外国語指導助手招致事業)

- 外国語指導助手(ALT) 6名配置
- 中学生イングリッシュ・デイ(10月)
- 小学生イングリッシュ・デイ(7月、10月)
- デジタル教材による個別最適な学び

③ 環境教育・ふるさと教育の推進

(生涯学習推進事業)(食育推進事業)

- 里山体験学習の開催(岩小4年生、岩小・玉小・南小1年生)
※11月の里山体験(西小)は、熊出没警報発令のため中止
- ふるさとの味、はらこ飯を味わおう!の開催(岩中3年生)
- 二木の松俳句大会の開催(小学5年生～中学2年生対象)出展作品数1,450点
- 地元産食材を積極的に活用した学校給食の実施
(郷土食献立の提供、長岡産りんごを使用したゼリーの提供)

(4) 教職員の資質・能力の向上

① 学校経営研修の充実

- 教職員研修会（全教職員対象） 2回開催（5月、12月）
- 小中学校校長会及び教頭会を毎月開催

② 若手教員の学びの場の提供

- 志高研修会「いわキャン」 （8月）
- 教育指導専門監による初任者層授業参観指導 16回

③ ICT 教育研修の充実

- いわすた（情報化推進リーダー）研修会 4回開催

④ 職能に応じた研修会の開催

- 教務・研究主任者研修会 8回開催（教務4回、研究3回、合同1回）
- 講師・補助教員研修会 4回開催（講師1回、指導2回、合同1回）
- 各種研修会：特別支援教育コーディネーター研修会、事務共同実施連絡協議会
養護教諭部会研修会、栄養士部会研修会等



中学生イングリッシュ・デイ



志高研修会「いわキャン」



岩沼チャレンジ「タイピング」表彰



岩沼学び塾 岩中会場

2 豊かな人間性や社会性、健やかな心身の育成

(1) 自他の命と人権を大切にし、思いやりやいたわりの心をはぐくむ道德教育の推進

(教育指導支援事業)

- 学校訪問において、道德の授業に対する指導助言
- 初任者層を対象にした、実践的道德教育力の育成とより良い授業づくりのための支援
- 校長と道德教育に関する情報交換及び校長への助言

(2) いじめの未然防止、早期発見、早期対応の推進

- いじめ問題対策推進委員会 2回開催
- いじめ問題対策連絡協議会 2回開催
- 「岩沼市いじめ防止基本方針」の改定(R8.3月)

(3) 一人ひとりを大切にした生徒指導及び心のケアの充実

(小中学校学習支援事業)(学びの多様化に係る運営事業)

- スクールカウンセラーの配置(市内全小中学校)
- スクールソーシャルワーカーの配置(拠点校:岩中)
- いわぬま子どもの心のケアハウス「あいるーむ」の設置(R元.7月～)
- 登校支援専門員を配置し、全中学校に学び支援教室を設置
(西中:R3.4月～、北中:R4.4月～、岩中・玉中:R7.4月～)

(4) 自ら危険を予測し、回避する力の育成を図る防災教育の推進

- 学校危機管理委員会の開催 3回開催
- 各学校において各種災害を想定した避難訓練の実施
- 姉妹都市高知県南国市との交流を通じた防災教育の実施

(5) 自他の命を大切にし、安全な生活を送る基盤を培う安全教育の充実

- 通学路等安全対策推進会議(通学路安全点検の実施) 2回開催
- ふれあいパトロール隊員による登下校時の見守り活動

(6) 望ましい生活習慣の育成及び食育の推進

- いわぬま健幸運動を小中学校にて実施(6月・1月)
- 早寝早起き朝ごはん啓発活動(市内4小1年生:7月・8月)
- 学校給食を活用した栄養士による食育指導の実施
- いわぬま食育ウィークの実施(11月)

(7) 体力・運動能力の向上と健康教育の推進

(運動体力向上事業) (スポーツ振興事業)

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を活用した授業改善
- 部活動地域移行の段階的な推進

(8) 疾病の予防及び保健教育の充実

(小中学校保健事業)

- 学校医・学校歯科医・学校薬剤師との連携による学校保健の推進
- 健康診断の実施、診断結果に基づく受診勧奨
- 岩沼市学校保健会へ補助 450,000 円

(9) 相互理解を図るコミュニケーション能力の育成

- ICT 機器を活用しつつ、話し合い活動の仕方を身に付け、自主的・自発的な態度や互いの考えを尊重し合うことを重視した活動実践
- 異学年交流、地域の方や ALT、他学校交流等、様々な方々との交流活動
- 岩沼市プレゼンテーションコンクールの開催(9月)
※全国プレゼンテーションコンクール((公)パナソニック教育財団)にて奨励賞受賞

(10) 小学校への円滑な接続のための保幼小連携の充実

- 岩沼市架け橋プログラム作成委員会の設置及び架け橋プログラムの作成
- 市内保幼小へ岩沼市架け橋プログラムを配付及び実践



岩沼市架け橋プログラム作成委員会

構成メンバー

各小学校1名ずつ 公立保育所1名 私立認可保育園1名
認定こども園1名 市立幼稚園1名

3 学びの多様化に応じたきめ細やかな教育の推進

(1) 一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導や支援の充実

(個別の教育支援計画及び適切な就学指導)

○個別の教育支援計画作成率 100%

○障害児就学指導審議会 5回開催

(特別支援教育総合推進事業)

○特別支援連携協議会 2回開催(7月・1月)

○コーディネーター等連絡会 1回開催(7月)

○特別支援教育研修会 1回開催(12月)

(2) 補助教員及び教育支援員の適正配置

(小中学校学習支援事業)

○補助教員19名 教育支援員12名 を配置

(3) 発達障害に関する知識と対応の充実

○発達障害に関する教職員研修の実施(特別支援教育研修会等)

○専門家によるケース会議の実施(障害児就学指導審議会)

○保護者への教育相談・就学相談の実施

○関係機関(保健・福祉・医療等)との連携による支援体制の充実

(4) 特別支援教育の理解と教育の充実

○補助教員・教育支援員配置による学習・生活支援の充実

○特別支援コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実

○一人ひとりの教育的ニーズに応じた合理的配慮の実施

(5) 教育相談体制の充実

(発達障害、不登校やいじめ、その他の課題、災害時及びその後の社会環境変化に対する心のケアの充実)

(小中学校学習支援事業)(青少年室相談事業)

○スクールカウンセラーを全小中学校へ配置

相談件数のべ1,581件

○スクールソーシャルワーカーを岩中(拠点校)へ配置

相談件数79件(支援家庭数75戸)

○翌年度就学児童を対象とした就学相談会の実施(8月)

○青少年室・教育相談センターでの相談対応 相談件数84件

(6) 不登校児童生徒に対する支援体制の充実

(多様な学びの場の構築と保護者への情報提供により社会的自立を支援)

(学びの多様化に係る運営事業)

○いわぬま子どもの心のケアハウス「あいるーむ」の設置

通所支援、学校訪問支援、教育相談の実施

○岩沼中学校及び玉浦中学校に登校支援専門員を配置 (R7.4 月～)

○全ての中学校に学び支援教室を設置し、別室登校生徒等に対する支援を実施

(県からの加配教員配置により、西中 (R3.4 月～)、北中 (R4.4 月～) 設置)

○児童生徒学校適応指導教室仙南けやき教室 (白石市) への通所委託



補助教員活用の授業風景



特別支援 Co 研修会 南小会場

4 魅力ある教育環境づくり

(1) 教育施設整備計画に基づく安心して学べる学習環境整備の推進

(小中学校施設維持修繕事業)(小学校施設改修事業)(小中学校就学環境整備事業)

○施設維持修繕事業費 小学校 421,445,862 円 中学校 32,213,335 円

岩小・玉小・南小・岩中・北中・西中給食室空調設備導入

岩小校地フェンス修繕、岩中高圧受電設備修繕、西小高圧ケーブル修繕

玉中職員室空調設備修繕、北中揚水ポンプ修繕

遊具修繕、厨房機器修繕、消防設備修繕 等

○小学校施設改修事業

南小校舎劣化調査

西小校舎長寿命化外部改修工事(第Ⅱ期)

○就学援助費の支給

小学校(合計) 22,176,711 円 中学校(合計) 21,221,758 円

○特別支援教育就学奨励費の支給

小学校(合計) 2,775,169 円 中学校(合計) 1,493,787 円

(2) 児童生徒一人ひとりに対応できる ICT 教育環境整備の推進

(小中学校情報教育推進事業)

○教育委員会事務局職員による ICT 機器活用及び ICT 教育推進の学校へのサポート

○統合型校務支援システムによる公簿の完全電子化(R4.4 月～)

○全普通教室でプロジェクター及び映写兼用黒板を活用した授業を実施

(整備 中学校:令和3年度、小学校:令和4年度、追加分:令和5年度)

○岩沼市プレゼンテーションコンクールの開催(9 月)

○令和6年度に岩小と北中が JAET(日本教育工学協会)学校情報化「先進校」に、
その他6校が「優良校」に認定されたことから、岩沼市は「学校情報化先進地域」
として認定を受けている。(令和6年度～)

(3) 外国語指導助手(ALT)活用の充実をはじめとする英語教育環境整備の推進

(外国語指導助手招致事業)

○外国語指導助手(ALT) 6名配置

○中学生イングリッシュ・デイ(10月)

○小学生イングリッシュ・デイ(7月、10月)

○デジタル教材による個別最適な学び

(4) 教員が子供と向き合う時間の確保(教育 DX・働き方改革)

○統合型校務支援システムを活用した公簿の完全電子化(R4.4 月～)

○「部活動ガイドライン」に基づいた部活動の実施

○学校事務共同実施(南小に共同事務室を設置)(H28.4 月～)

- 就学時健診会場を各小学校から総合体育館に変更（R6.10 月～）
- 「岩沼市教職員の働き方改革に関する取組方針」の改訂（R8.3 月）
- 在校時間調査の結果

教師の 1 月あたりの時間外在校等時間

「45 時間以内達成」88.2% 「80 時間超」0%

※時間外在校等時間＝在校等時間－正規の勤務時間

（５）学習支援ボランティアの活用と協働教育の推進

（宮城教育大学・仙台大学・東北福祉大学等との連携及び地域連携推進事業）

- 学生による岩沼学び塾（放課後及び夏季・冬季休業期間に実施）の支援

（６）家庭・地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進

（地域連携推進事業）

- 各学校で学校評議員を委嘱
- 学校運営協議会の開催
- コミュニティ・スクールの推進（玉浦小・玉浦中合同実施）
- ふれあいパトロール隊員 81 名登録

（姉妹都市高知県南国市訪問団との交流事業）

- 南国市から岩沼市へ訪問 8 月 26 日～28 日

（児童生徒 6 名、教員・教育委員会事務局職員 10 名）

玉小、玉中と防災学習等の交流活動、震災遺構山元町立中浜小学校等の見学

- 岩沼市から南国市へ訪問 11 月 5 日～7 日

（児童生徒 8 名、教員・教育委員会事務局職員 8 名）

南国市立稲生小学校、香南中学校と防災学習等の交流活動、防災タワー等の
見学

（７）家庭における学校教育への理解促進

- 教育施策・教育活動の情報発信
- タブレット端末の持ち帰り学習と端末を活用した家庭学習
- 部活動の地域展開について啓発活動

（８）自校方式、地産地消を生かした給食の提供による食育の推進

- 地場産物活用状況調査 県産品の使用割合 45.3%、岩沼産品の使用割合 12.3%

- 給食で長岡産りんごを使ったゼリーの提供（11 月：令和 3 年度より実施）

※児童生徒からパッケージデザインを募集

- 岩沼産米を使用した米粉パン（H17.11 月～）米粉麺（H20.4 月～）の提供補助

- 第 13 回いわぬま食育ウィーク（11 月 13 日～19 日）【市全域で実施】

テーマ：「塩はひかえめ、元気はおおもり、バランスごはんでパワーアップ」

小中学校では共通メニューの提供のほか、食育レター、給食だより、食育動画を

活用した食育指導を行った。

○地元企業（利久）と連携し、地域の食文化である牛タン給食を提供
（小学校4校）

○学校給食運営協議会の開催 1回開催

（9）学校図書館への司書等配置による、児童生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動の充実

○全校の図書館に司書を配置

小学校：司書4名 学校図書館業務補助員2名

中学校：司書2名（2校を1名で兼務）

○学校図書館図書整備事業費

小学校：2,306,445 円（購入冊数 1,522 冊 蔵書数 65,579 冊）

中学校：2,337,737 円（購入冊数 1,336 冊 蔵書数 54,147 冊）

年間貸出数：小学校 156,337 冊 中学校 11,843 冊



岩沼市プレゼンテーションコンクール



玉浦地区コミュニティ・スクール



南国市から岩沼市へ訪問 玉中会場



岩沼市から南国市へ訪問

「たくましさやさしさを培う学校づくりの推進」に関する事業の点検・評価

令和7年度は、「自立した学習者の育成」を基本に、学力の向上と豊かな人間性の育成に向けた取組を着実に推進した。

学力向上においては、教職員研修や校内研究の充実を図るとともに、補助教員や教育支援員を適切に配置し、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導を推進した。また、AIドリルの活用や、教育施策をまとめた資料「自立した学習者の育成をめざして」の作成・活用、「いわぬまチャレンジ」の実施などにより、自ら学ぶ力の育成に取り組んだ。全国学力・学習状況調査では、中学校理科で全国平均を上回る成果が見られる一方、「表現力」「根拠をもって説明する力」の向上が今後の課題であり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を引き続き推進していく必要がある。

また、岩沼学び塾では、延べ4,133人児童生徒が参加し、家庭学習時間の増加や学習意欲の向上など、学習習慣の定着に成果が見られた。各学校における学校教育目標推進事業では、ICTを活用した学習、体験活動、読書活動、体力向上など、それぞれの特色を生かした教育活動を展開した。さらに企業や地域と連携したキャリア教育や、高知県南国市との交流、防災学習、ふるさと教育などを通して、児童生徒の夢やあこがれ、郷土への愛着を育むことができた。

心のケアや生徒指導の面では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる支援に加え、全ての中学校に学び支援教室を整備し、登校支援専門員を配置するなど、不登校児童生徒や課題を抱える児童生徒への支援環境を充実させた。また、保幼小連携では岩沼市架け橋プログラムを策定・実践し、小学校への円滑な接続に向けた取組を推進した。

食育では、学校給食を活用した栄養指導や地場産食材・郷土食を取り入れた献立の提供を通して、望ましい食習慣の形成と郷土への理解を深める取組を推進した。また、地域と学校が連携・協働して子供達を育むため、学校運営協議会の開催やコミュニティ・スクールの推進に取り組み、家庭・地域との連携による開かれた学校づくりを進めた。

さらに、学校施設では給食室への空調設備導入をはじめとした施設整備や修繕を実施し、安全で快適な教育環境の充実を図ったほか、ICT環境の活用や校務のデジタル化、教職員の働き方改革についても着実に推進した。

総じて、令和7年度は、学力向上をはじめ、特色ある教育活動、食育、コミュニティ・スクールの推進、心のケア、ICT教育、教育環境整備及び働き方改革など、各分野において事業を計画的かつ効果的に推進することができた。このことから、「たくましさやさしさを培う学校づくりの推進」に係る取組・事業は概ね順調であると判断した。

引き続き、「自立した学習者の育成」の充実を図るとともに、多様な教育的ニーズに対応した支援、安心・安全な教育環境の整備、家庭・地域との連携を一層推進し、魅力ある学校づくりを進めていく。

学びと潤いにみちた地域社会の実現

1 生涯学習推進体制の整備

(1) 家庭・地域・学校が連携した協働教育の推進

(生涯学習推進事業)

- | | |
|---------------------------|---------------|
| ○社会教育委員会議の開催 | 2回開催(5月・1月) |
| ○生涯学習振興事業助成金の交付 | 4団体 443,000円 |
| ○文化振興報奨金の交付 | 10件 85,000円 |
| ○岩沼市地域学校協働本部会議 | 会議2回開催(7月・1月) |
| ○Happy チャイルドカレンダー作成(編集会議) | 毎月1回発行 |

(2) 生涯学習・社会教育に携わる人材育成

(生涯学習推進事業)

- | | |
|----------------------------------|------------|
| ○ジュニア・リーダー初級研修会の開催 | 7名参加 |
| ○コラボスクール(里山体験学習)の開催 | 4回開催 |
| ※11月の里山体験(西小)は、熊出没警報発令のため中止 | |
| ○電子顕微鏡体験教室(ミクロの世界をのぞいてみよう!)の開催 | 3日間実施62名参加 |
| ○ふるさとの味、はらこ飯を味わおう!の開催(岩中3年生) | |
| ○二木の松俳句大会の開催(小学5年生~中学2年生対象)出展作品数 | 1,450点 |
| ○「スタンウェイに触れてみよう」の開催 | 3日間実施 |

(3) 持続可能な学びの循環

(生涯学習推進事業)

- | | | | |
|--------------|-------|------|------------|
| ○東部のびやか教室の開催 | 登録13名 | 年19回 | 参加延べ人数221名 |
| ○西部のびやか教室の開催 | 登録60名 | 年20回 | 参加延べ人数867名 |
| ○南部のびやか教室の開催 | 登録35名 | 年20回 | 参加延べ人数523名 |
| ○北部のびやか教室の開催 | 登録24名 | 年21回 | 参加延べ人数360名 |



ジュニア・リーダー初級研修会



ふるさとの味、はらこ飯を味わおう!

2 生涯にわたる学習機会の充実

(1) 家庭教育支援の充実

(生涯学習推進事業)

- | | |
|---------------|---------|
| ○子育て、親育ち講座 | 5 回開催 |
| ○早寝早起き朝ご飯啓発活動 | 1 1 回実施 |

(2) 青少年健全育成活動の推進と社会参加の促進

(青少年室相談事業) (生涯学習推進事業)

- | | |
|---------------------|-----------|
| ○相談件数 | 8 4 件 |
| ○街頭巡回指導件数 | 3 0 件 |
| ○小中高校生への声掛け件数 | 5 7 8 件 |
| ○子ども 1 1 0 番の家の設置件数 | 2 3 2 カ所 |
| ○少年の主張の開催 | 8 名参加 |
| ○二十歳を祝う会の開催 | 3 3 8 名参加 |
| ○青少年健全育成推進団体補助 | |
| ① 岩沼市ジュニア・リーダー協議会 | 8,000 円 |
| ② 岩沼地区少年補導員協会 | 11,000 円 |
| ③ 健やかな子どもを育てる岩沼市民会議 | 284,000 円 |
| ④ 岩沼市子ども会育成連合会 | 7,000 円 |
| ⑤ 岩沼市父母教師会連合会 | 15,000 円 |
| ⑥ 岩沼小学校区子ども会育成会 | 13,000 円 |
| ⑦ 玉浦地区子ども会育成会 | 13,000 円 |
| ⑧ 岩沼南小学校区子ども会育成会 | 13,000 円 |

(3) 読書活動の推進

(図書館蔵書整備事業) (図書館運営事業)

- | | | |
|----------------------------------|---------------|----------------|
| ○利用登録者数：13,567 名 | 貸出者数：68,723 名 | 総貸出数：234,974 冊 |
| ○入館者数：121,269 名 | 蔵書数：220,033 冊 | |
| ○市民図書館運営協議会 | 1 回開催 | |
| ○読み聞かせボランティアステップアップ講座 | 8 0 名参加 | |
| ○読み聞かせ研修会(2 回) | 2 4 名参加 | |
| ○第 1 4 回文化講演会 | 3 7 名参加 | |
| ○手作り絵本教室 | 1 1 名参加 | |
| ○豆本づくり・書庫見学ツアー | 1 4 名参加 | |
| ○小学生向け特別おはなし会 | 2 0 名参加 | |
| ○朗読のひととき | 2 2 名参加 | |
| ○本のミニリサイクル市 | 5 日間にわたり開催 | |
| ○読み聞かせサークルによるおはなし会 (月 1 回～2 回開催) | | |

○学校との連携（学校図書館職員との合同研修会の実施13名参加、ティーンズブックリスト用イラスト募集等）



早寝早起き朝ご飯啓発活動



岩沼市少年の主張



二十歳を祝う会



読み聞かせボランティアステップアップ講座

3 社会教育施設の有効活用

(1) 社会教育団体活動の推進と支援

(生涯学習推進事業)

○社会教育団体補助

① 岩沼市婦人団体連絡協議会	81,000 円
② ガールスカウト	5,000 円
③ ボーイスカウト	5,000 円

(2) 社会教育施設の長寿命化対策の推進（環境の整備）

○施設利用状況

	開館日数	利用件数	利用者数	1 日平均 利用者数
市民会館	345	709	43,059	125
中央公民館	345	1,032	14,476	42

○施設修繕

- ①市民会館 大・中ホール舞台機構修繕、大ホール客席改修等 68,952,623 円
大ホール舞台照明設備修繕、自動ドア装置修繕等 5,102,350 円
- ②市民図書館 1 階空調機室外機修繕 1,276,000 円 蓄熱機修繕 880,000 円
エレベーター非常電源用バッテリー修繕 110,000 円



市民会館大ホール客席改修

「学びと潤いにみちた地域社会の実現」に関する事業の点検・評価

「放課後子ども教室（のびやか教室）」や「里山体験学習」では、学校と連携して、より多くの地域住民の方々に子供達の成長を支える活動へ主体的に参加いただいたことによって実施することができたが、11月の里山体験学習(西小)は、熊出没警報発令のため中止となった。一方で、学習を20年間支援している「グリーンピア森の散策会」と「いわぬま森のサポーター」の功績が認められ、宮城県教育委員会協働教育推進功績団体として宮城県教育委員会より表彰されることが決定した。（表彰式は、令和8年5月実施）

また、市家庭教育支援チーム「ほっぺの会」の活動を支援し、県教育委員会主催の研修会への参加や就学時健診に併せて「子育て親育ち講座」を実施し、地域全体での家庭教育支援の活性化を図ることができた。今後も各小学校において「早寝早起き朝ご飯啓発活動」を実施するなど積極的な活動を計画し支援していく。

「岩沼に愛着を持つ人材育成事業」として実施している「ふるさとの味、はらこ飯を味わおう！」や「二木の松俳句大会」、「ミクロの世界をのぞいてみよう！」においても、多くの市内小中学生が参加し、興味深く取り組み、学習の充実を図ることができた。

青少年健全育成として、子ども会育成事業への支援やジュニア・リーダーの育成支援をはじめ、青少年室の運営、街頭巡回指導等、関係団体と連携しながら地域コミュニティの振興と子供達の安全・安心な環境づくりに努めた。

図書館については、図書館の利用促進と市民の読書活動推進のための各種行事、研修会等を実施した。読み聞かせボランティア育成のための講演会や研修会を実施し、好評を得ることができた。また、学校図書館との連携をはかるため合同での職員研修会を実施した。

人口減少やコミュニティの衰退を受けて、住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中、学校・家庭・地域が協働・連携することで、市民の学習環境の整備、学習機会を充実させる取組は、一定の成果をあげており、「学びと潤いにみちた地域社会の実現」に関する事業は概ね順調と判断した。

かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興

1 芸術文化活動の推進

(1) 芸術文化鑑賞機会の確保と自主活動の奨励

(芸術文化振興事業)

○文化事業協会における主催・共催事業 9本11公演 鑑賞者数 4,286人

(2) 地域文化活動の推進

(芸術文化振興事業)(生涯学習市民活動支援事業)(中央公民館学級・講座運営事業)

(生涯学習推進事業)

○第36回市民文化芸術祭の開催 313名(団体29、個人4名)の参加2日間で1,320名の来場者

○第45回いわぬま市民交流フェスティバルの開催 442名(団体46)の参加2日間で1,931名の来場者

○中央公民館学級・講座の開催 10教室223名の参加 延べ人数864名

○中央公民館玉浦講座の開催 4教室 82名の参加 延べ人数348名

○中央公民館西講座の開催 6教室222名の参加 延べ人数748名

○社会教育団体登録数 108団体

(3) 部活動支援事業の充実(部活動地域移行の段階的な推進)

○文化部活動支援:吹奏楽9種類の楽器の演奏指導(クラリネット、トランペット、サックス、フルート、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、パーカッション) 年間9日 17回開催

○文化部活動支援:美術(水彩画、デッサン)講座 年間5回開催



公民館講座 寿大学



部活動支援事業 吹奏楽

2 文化財の保護と活用の推進

(1) 文化財の保護思想の普及と保護体制の整備

(文化財保護一般管理)

- 文化財保護委員会 1 回開催
- ふるさと展示室において文化財企画展の開催 (第 4 6 回～第 4 9 回)
- 出前授業 1 3 回開催
- 文化財めぐり 米沢市上杉博物館ほか 2 9 名参加

(2) 文化財や歴史資料の保存・活用の推進

(文化財保護一般管理)

- 岩沼市史活用事業講演会 2 回開催
- 市史を活用したパネル展 5 回開催

(3) 民俗芸能の保護・支援

(文化財保護一般管理)

- 指定文化財等補助
 - ①竹駒奴 9,000 円
 - ②早股熊野神楽 9,000 円

(4) 開発等に伴う埋蔵文化財発掘調査の推進

(文化財発掘調査事業)

- 開発計画と埋蔵文化財の関わりについての協議書の提出件数 3 6 件

(5) 原遺跡発掘調査の推進

(文化財発掘調査事業)

- 原遺跡第 1 0 次発掘調査での新たな発見
 - ・ 7 世紀半ばに阿武隈川で面した場所に作られた区画施設の東側延長を確認
 - ・ 8 世紀代には小規模な倉庫と大型の建物が存在していたことを確認
 - ・ 長さ 2 m を超える大型の土坑が集中する地区があることを確認
 - ・ 大型土坑の一つは氷室と考えられ、当時は物流の拠点であった可能性が浮上
- 古代城柵官衙遺跡検討会・宮城県遺跡成果報告会での発表



岩沼市史活用事業講演会



原遺跡発掘調査

3 生涯スポーツの振興

(1) スポーツ団体及び指導者の育成・支援

(スポーツ振興事業)

- スポーツ団体補助
 - ①岩沼市体育協会 770,000 円
 - ②岩沼市スポーツ少年団本部 47,000 円
- 国体出場者報償 8 名 80,000 円
- 全国障害者スポーツ大会出場者報償 1 名 10,000 円
- スポーツ振興報奨金 167 件 1,520,000 円

(2) 部活動支援事業の充実（部活動地域移行の段階的な推進）

(スポーツ振興事業)

- 運動部活動支援：拠点型7種目
バドミントン・陸上競技・卓球・ソフトテニス・野球・バスケットボール
バレーボール
前期（4月～9月） 70回、後期（10月～3月） 70回
- 運動部活動支援：派遣型4校5種目
岩中：バドミントン・卓球 西中：バドミントン・剣道
北中：バレーボール・剣道 玉中：バドミントン・野球
前期（4月～9月） 80回、後期（10月～3月） 80回
- 休日の部活動の段階的な地域展開の取組
 - ・啓発活動、説明会の実施
 - ・休日スポーツ教室の開催：10種目
令和5年度から実施 陸上、バドミントン、卓球
令和6年度から実施 野球、サッカー、バスケットボール
令和7年度から実施 剣道、バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール
 - ・部活動の地域移行に関する相談窓口と指導者登録窓口の運営

(3) スポーツ施設活用の促進（学校施設開放による活用・支援）

(スポーツ振興事業)

- 学校開放登録団体 ・登録団体数 67団体
- いわぬまスポーツフェスティバル（令和7年10月25日開催）・324名参加

(スポーツ施設管理事業) (スポーツ振興事業)

- 岩沼市総合体育館中央監視装置修繕
- 岩沼市総合体育館1階女子トイレ更新修繕
- 市長杯総合スポーツ大会の開催
- 主な施設の利用状況

	総合体育館	陸上競技場	多目的グラウンド	小学校体育館・校庭	中学校体育館・武道館・校庭
利用者数	99,092	26,656	17,250	76,158	46,992

(4) 市内開催の全国的、全県的大会の支援

(スポーツ施設管理事業)

○新日本プロレス「BEST OF THE SUPER Jr.32」岩沼大会



休日スポーツ教室 野球



休日スポーツ教室 バドミントン



いわぬまスポーツフェスティバル
e スポーツ



いわぬまスポーツフェスティバル
野球教室

「かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興」に関する事業の点検・評価

公民館では、各種教室・講座を開催し、学びを通して新たな人のつながりを築く場として機能した。また、社会教育団体に対し、活動の場の提供と費用負担面の支援措置を講じるなど生涯学習の促進に努めた。

市民会館においては、合唱、クラシック音楽、演劇などの企画を支援・開催し、市民主体の地域文化活動の活性化に貢献した。

中学校の文化部の部活動支援では、吹奏楽と美術の基礎指導・支援に取り組んだ。次年度以降も引き続き部活動の地域展開に向けた継続的支援に努める。

文化財保護・活用については、特に原遺跡第10次調査において、土地区画の形成時期や建物の配置などに関する新たな知見を得ることができた。

市民の多様な文化・芸術活動への支援、および文化財の保護等に関する取組については、前述のとおり一定の成果を得たものと判断している。

スポーツ振興の面では、指定管理者制度を活用した市内8つの体育施設の管理運営について、指定管理者による施設整備や市民に対するサービス向上が適切に行われており効果は大きいといえる。市民の生涯スポーツ振興のため、指定管理者と協力していわぬまスポーツフェスティバルを開催し、多くの方々にご参加いただいた。業務委託による運動部の部活動支援においても、総合体育館を拠点として4中学校合同の指導を行ったほか、指導者を各校へ派遣する等、継続的な活動を行うことができた。今後も指定管理者と連携して市内体育施設の管理・運営に努めていきたい。

令和5年10月から、休日における中学校の運動部活動の段階的な地域移行の取組を進めており、令和7年度は、剣道、バレーボール、ソフトテニス、ソフトボールを追加した10種目について、中学生を対象に休日スポーツ教室を開催するとともに、相談や指導者登録の窓口を運営する等、体制整備に取り組んだ。運動部に関する種目は、10種目で今後も展開を継続するとともに、文化部（吹奏楽部）に関する相談・支援に努めていきたい。

上位大会に出場した市民に交付するスポーツ振興報奨金は、事務の簡素化と市民への周知に努めた結果、交付件数が176件となり、スポーツ活動支援策の一つとして多くの方に活用いただいた。

市民のスポーツ環境の整備、及び市民がスポーツに親しむ機会の提供に関する取組は、一定の成果をあげており、「かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興」に関する事業は概ね順調と判断した。

IV 学識経験者の意見

柄澤 一彦氏（元公立小学校長）

岩沼市教育委員会が令和 7 年度に実施した主な事務事業の執行状況についての点検・評価結果について、所見を述べる。

1 たくましさやさしさを培う学校づくりの推進について

「自立した学習者の育成」を基本として、学力の向上及び豊かな人間性の育成啓発に向けた取組を着実に展開され、一層の充実を図られてきたことに敬意を表する。

まず注目したことは、市の教育基本方針の中心軸の一つ目である「学校づくりの推進」を支える 4 項目の内 3 つにおいて、具体的に提示された事業の数が増加したことである。実際には、「2 豊かな人間性や社会性、健やかな心身の育成」においてはこれまで 7 事業を提示していたものが 10 事業に、「3 学びの多様化に応じた細やかな教育の推進」では 5 事業が 6 事業に、「4 魅力ある教育環境づくり」では 7 事業が 9 事業にと、それぞれ取り組むべき事業としての拡充と細密化が図られており、表現も抽象を排してより具体化したものとなっている。

「踏襲」を是としない気概を感じるとともに、構想段階から PDCA サイクルに則ったブラッシュアップが図られていることが理解できた。関連して、報告書における記述等においても、画像を交えるなど、より詳しく記載されており、実のある点検・評価をものにしていこうとの意欲を内容から見て取ることができた。報告書の点検・評価欄に『…係る取組・事業は概ね順調であると判断した』と記載があったが、正に妥当な評価・判断がなされていると、詳しい記載内容を基にした上で理解できる。

学力向上に関して、先進的な ICT 機器を活用した教育の推進や教育 DX の取組、補助教員や教育支援員の潤沢な招致・配置など、多年に渡る多様な事業や取組により、充実の積み上げが図られてきていることを評価したい。また、市内 2 校が JAET「先進校」に、他 6 校が「優良校」に認定され、市が「先進地域」として認定されていることは、各校及び教育委員会のこれまでの努力と熱意が正当に評価されていることとして大変喜ばしく祝意を表したい。加えて、昨今子どもたちを取り巻く社会の状況から勘案して、AI の適切な使い方や情報モラル教育等に関しても、今後の指導の一層の充実が図られるよう期待したい。

不登校や課題を抱える児童生徒への支援については、体制の整備に努力が重ねられていることを評価したい。さまざまな事情で学校に行かない・行けない子どもたちの個別のニーズを把握し、適切に応答するよう、また保護者が孤立感に陥ることのないよう、教職員がチームとして寄り添い続けるとともに、多様な学びの機会の創設や相談活動の充実、関係機関との連携強化など、これまでの取組を積み重ねていかれるようお願いしたい。最近は特に、校内教育センターの充実が言われており、「別室」が「自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習も生活もできる環境」として設置されることが望まれている。不登校支援は社会的自立に向けた支援であり、学校（学級）復帰を第一義にしている訳では毛頭ないが、校内にある「別室」を「居場所」として通い続けた児童生徒がやがて自分の教室に戻れるようになる確率は高いと言われている。こうした、子どもたちも待ち望んでいるような、静かに学習するだけでなく、児童生徒間で

または教職員とゆったりと対話ができ楽しめる「居場所」づくりを、更に築いていっていただきたい。

上述した不登校児童生徒の支援に関連して一点触れておきたい。「疾病予防・保健教育の充実」が新たな事業項目として提示されたが、「健康診断の実施、診断結果に基づく受診勧奨」に関わって、不登校児童生徒の健康診断の受診勧奨について、是非、一層の取組強化を試みていただきたい。難しい事例もあると思われるが、全児童生徒の健康の維持に向け、可能な手立てを講じていただきたい。

「幼保小連携の充実」が新たな事業項目として提示され重視されたことを評価する。『生徒指導提要』においても、『幼保小連携の教職員が交流体験や情報交換を通して、それぞれの時期における発達の特徴や、幼児教育や小学校教育の課題について相互理解し合うことは大切であり、こうした円滑な接続は、小学校という新たな環境においても、児童が安心して楽しく学習や生活を送ることにつながる（趣意）』とある。入学当初のみならずその後の小学校における生活や学習へのつながりを視野にした検討を継続していただきたい。

「食育の推進」についても、事業項目として新たに明示された。岩沼市が推進する自校方式、地産地消を生かした給食提供は、正しく『売り』である。児童生徒も教職員も食によって日々癒やされ活力を得ていることは間違いない。加えて、愛郷教育や情操教育や命の教育の機会ともなっている。今後も、紹介されているようなユニークな発想を取り入れた多様な食育の取組に大いに期待したい。

「自立した学習者の育成を目指して」のデジタル版が今年度から公開されたことは大変素晴らしいと感じた。見やすい図表いりて提供されたことは、保護者だけではなく市内の多くの方々にも好評を博しているのではないかと想像する。説明責任を果たしていくことは結果として信頼につながっていくと評価したい。一方で、学校や行政の関係者にとっては簡単に意味のとれるものであっても、一般の方からすれば理解が得がたい用語や表現があるかもしれない。更に、保護者や一般の方々の目線に立ち、充実した誌面となっていくことを大いに期待したい。

2 学びと潤いにみちた地域社会の実現について

地域と学校との協働活動として、多くの方々や団体等が積極的・主体的に協力・参加・参画されて、多様な事業が推進されていることは大変素晴らしい。この度、「グリーンピア森の散策会」「いわぬま森のサポーター」の2団体が、その功績を認められ、協働教育推進功績団体として宮城県教育委員会より表彰されたことに敬意と祝意を表したい。

この他にも、家庭教育支援チーム「ほっぺの会」など、さまざまな形態で子供達の成長や家庭を支えていこうと活動されている団体がおられる。その姿は、理想的で貴重であり、広く紹介するとともに手厚い活動支援を展開していただきたい。

「ふるさとの味、はらこ飯を味わおう（体験試食会）」「二木の松俳句大会」の開催など市教育委員会が主導するさまざまな事業に、多くの児童生徒が参加し、発展的な学習の充実が図られていることを評価したい。青少年の健全育成においても多様な支援が行われ安全・安心な環境づくりに努めてきたことを評価したい。

市図書館と学校図書館の連携は重要である。「読書と学力は密接に結びついている」とのある学者の著作を読んだことがある。児童・生徒に留まらず多くの市民が読書に親しむ機運を高めるとともに、読書を通して心豊かな生活ができるよう多様な施策や環境の整備に今後も努めていただきたい。

きたい。

人口減少やコミュニティの衰退という今日的課題を捕まえながら、多面的な協働・連帯の展開を図り、「学びと目潤いにみちた地域社会の実現」を目指す不断の取組に敬意を表する。

3 かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興について

多様な教室・講座の企画開催や社会教育団体に対する支援、文化財の保護・活用を通して生涯教育の促進、地域文化活動の活性化に貢献している。スポーツ振興においても、指定管理者制度による施設整備や市民に対するサービス向上が適切に行われている。

中学校部活動支援においては、文化部・運動部共に段階的な地域移行が着実に進められている。今後も、体制の整備充実に向けた継続的な取組、相談・支援に努めていただきたい。部活動支援にも関連するが、若い世代の参加や来場を促す企画等についても、広く工夫を図られるよう期待したい。

市民が芸術文化とスポーツに親しみ享受できる環境整備や機会の提供等について、不断に努力を重ねていることに敬意を表する。

森 伴久氏（元公立小学校長）

岩沼市教育委員会が令和 7 年度に実施した主な事務事業の執行状況についての点検・評価結果について、所見を述べる。

Ⅰ たくましさとやさしさを培う学校づくりの推進について

「自立した学習者の育成」を目指し、これからの時代を見据えた授業改善と教育ＤＸをはじめとした教育環境の整備が一体となって推進されていることがうかがえる。学力の向上と豊かな人間性の育成に向けた取組が、学校現場において着実に具現化されており、教育効果の着実な高まりが期待される。

学力向上においては、令和 7 年度に導入されたＡＩドリルの効果的な活用や岩沼市独自の教育施策を体系的にまとめた資料「自立した学習者の育成を目指して」の作成・公開、延べ 4,133 名が参加した「岩沼学び塾」など、子供たちの主体的な学びのスタイルを確立するための多角的なアプローチが着実に機能している。全国学力・学習状況調査において、小学校各教科の学力定着に課題を残したものの、中学校数学や理科が全国平均を上回る結果となったことは、これまでの指導力向上を目指す地道な教職員研修や適切な人的配置が確かな教育効果となって表れているものと評価できる。今後は、課題となった「表現力」や「根拠をもって説明する力」の育成に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けたＩＣＴ機器の効果的な活用など、授業改善が一層推進できるよう、学校現場へのきめ細かな指導助言並びに専門的知見に基づく伴走支援を継続していただきたい。

「夢☆あこがれプロジェクト事業」において、地元企業とアイデアを出し合ったレトルトカレーの開発や一流の芸術・文化の本質に触れる多様な体験活動を展開したことは、子供たちの未来への視野を広げ、望ましい職業観・勤労観を育む特色ある取組として高く評価できる。

食育の推進においては、自校方式の強みを生かした地場産物の活用や、地元企業と連携した「牛タン定食」の提供など、地産地消と郷土愛を育む特色ある取組が展開されている。「いわぬま食育ウィーク」での動画を活用した食育指導やりんごゼリーのパッケージデザイン募集など、食への関心と主体性を高める工夫も随所に見られ、生活習慣の形成に寄与している。今後は、これらの取組が家庭での食生活改善へどのように波及しているか効果検証を進め、地域と一体となった食育の一層の充実を期待したい。

不登校児童生徒への支援においては、令和 7 年度より岩沼中学校及び玉浦中学校に登校支援専門員を岩沼市独自に配置し、全ての中学校に学び支援教室を整備するなど、学校内外における多様な学びの場と心のケアの環境が更に強固なものとなっている。一人一人に寄り添った居場所の確保と社会的自立への着実なアプローチは、子供たちの心の安定と安心感を育む上で何よりの基盤となると考える。

令和 7 年度に本格実施された「岩沼市架け橋プログラム」による小学校と幼児教育施設の保幼小連携事業は、幼児期の遊びを通した主体的な学びから小学校における教科の学びへの円滑な接続を具現化する優れた取組として高く評価したい。5 歳児から小学 1 年生への移行期における「アプローチカリキュラム」の共有や、小学校入学当初の「スタートカリキュラム」の工夫により、子供たちが新しい環境に戸惑うことなく、安心して学校生活への第一歩を踏み出せる環境が整えられている。今後は、幼児教育施設と小学校の教職員による相互理

解や合同研修の機会を更に充実させ、岩沼市が目指す「自立した学習者」の土台を幼児期から段階的に育む体制へと発展させていただきたい。

安全で快適な教育環境づくりに向けて、給食室への空調設備導入や岩沼西小学校の校舎長寿命化外部改修工事など、必要な学習環境整備へ迅速に予算が投じられたことは高く評価できる。

働き方改革の取組については、時間外在校等時間の縮減により「45時間以内達成」が8割を超え、「80時間超」の教師が一人もない状況を維持している点は大きな成果である。統合型校務支援システムによる公簿等の完全電子化や就学時健康診断の会場変更など、多角的な業務効率化の推進が着実に実を結んでいる。単なる校務の効率化にとどまらず、教育の本質的な充実を目指して職場環境の改善を迅速に進める先進的な姿勢は、高く評価されるべきものである。今後は、各学校が教育DX等で生み出された時間を教材研究や子供たち一人一人と向き合う時間へ有効に還元し、岩沼市が目指す教育の質の更なる向上につなげていくことを期待したい。

2 学びと潤いにみちた地域社会の実現について

生涯学習推進体制の整備においては、「放課後子ども教室（のびやか教室）」や「里山体験学習」など、多様な地域人材や岩沼市の豊かな自然素材を生かした取組が学校現場と密に連携して推進されている。地域住民がサポーターとして深く関わる組織的で系統性のある活動は、子供たちの郷土愛を育むばかりでなく、地域住民自身の生きがいや活力を高め、地域全体で家庭教育を支える強固な基盤づくりにつながるものとして高く評価できる。令和8年5月、長年にわたり子供たちの学習を温かく支援してきたボランティア団体の功績が認められ、宮城県教育委員会から表彰されたことは、岩沼市が築き上げてきた協働教育の精神が地域社会に深く根付き、長年の地道な歩みが地域教育の発展を象徴する大変意義深い成果である。

また、「ふるさとの味、はらこ飯を味わおう！」や「二木の松俳句大会」などの地域人材育成事業に、多くの子供たちが興味を持って参加し、世代間交流を通して学びを深めている点も評価できる。今後は、岩沼市が推進する協働教育のネットワークを更に広げ、学校支援ボランティアの登録促進や活動の多様化を進めながら、地域ぐるみの教育力が持続・発展していくことを期待したい。

市民図書館における読書活動推進においては、学校図書館との合同職員研修会を実施するなど、組織の枠を超えた連携体制の構築に創意工夫が感じられる。さらに、インターネット予約の活用や館内に魅力ある特設コーナーを設置するなど、市民の多様なニーズや時代の変化に応える読書環境の整備が主体的に進められている点は高く評価できる。今後は、学校図書館との連携を更に深化させ、子供たちの主体的・継続的な読書習慣が家庭にも波及していくよう、地域一丸となった読書活動の推進を期待したい。

3 かおり高い芸術文化と活力あふれるスポーツの振興について

中央公民館における各種教室・講座の開催や社会教育団体への支援は、学びを通じた新たな人のつながりを築く生涯学習の拠点として、市民の多様なニーズを捉えながら着実に成果を上げている。今後は、多様化するライフスタイルに対応した講座内容の精査や若い世代の参画を促す工夫を更に進め、地域コミュニティ活性化の核となるよう取り組んでいただきたい。

い。

文化財の保護と活用では、「原遺跡第10次発掘調査」において大型土坑の一つが氷室と考えられ、当時の物流拠点であった可能性が浮上するなど、歴史的・文化的な新知見の獲得がなされたことは貴重な成果である。検討会や報告会での積極的な情報発信に加え、出前授業などを通じて子供たちの郷土愛を高める普及活動に継続して注力している点は高く評価できる。今後は、これらの貴重な発見や調査成果について、広く市民の関心を引き付けられるよう、魅力的な情報発信を一層推進することを期待したい。

休日の部活動の段階的な地域展開の取組においては、令和7年度から剣道やバレーボール、ソフトテニスなどを追加した10種目へと休日スポーツ教室を拡大し、相談や指導者登録の窓口を運営するなど、子供たちの多様なスポーツ・文化活動の機会を守り、持続可能な体制の整備に向けて丁寧に進められていることがうかがえる。今後は、少子化を見据えた持続可能なスポーツ環境の全体像を構想しつつ、学校・家庭・地域が一体となって相互に補完し合い、子供たちの成長を支える最適な受け皿を段階的に整備していくことを期待したい。

生涯スポーツの振興においては、指定管理者制度を効果的に活用し、総合体育館の修繕など施設の適切な維持管理と、市民の誰もが安全・安心にスポーツを楽しめる環境づくりが進められている。上位大会への出場者に交付されるスポーツ振興報奨金の件数が176件へと増加していることも、市民の意欲を支える有効な施策として機能していることの表れである。今後も、利用者の声をきめ細かく拾い上げながら、より利用しやすい施設・環境となるよう、指定管理者との連携を密にして経年劣化への計画的な対応などに取り組んでいていただきたい。

岩沼市教育委員会点検・評価報告書（令和 7 年度実績）

令和 8 年 8 月発行

発行：岩沼市教育委員会

編集：岩沼市教育委員会 教育部学校教育課

〒989-2480 岩沼市桜一丁目 6 番 20 号

電話 0223-23-0728 FAX 0223-24-0897

メール gakkou@city.iwanuma.miyagi.jp